



公民館館報

いんぎらあと

公民館館報 第54号
西南部公民館
編集 広報部
TEL 240-8860 FAX 240-8960
(E-mail)
seinanbu-k@spacelan.ne.jp



■CONTENTS

- 社会体育大会
- 防災訓練 消防訓練
- 市民ソフトボール
- チカモリ縄文まつり
- ジョンガラ踊りの夕べ・学習会
- 遺跡めぐりツアー
- 文化祭・特ダネ西南部

社会体育大会



◆優勝 八日市出町 2連覇!
 ◆準優勝 西金沢4丁目
 ◆3位 新保本



「強さの秘訣」



八日市出町会
 町会長 西田 敦志

「八日市出町は、なんであんなに強いのか？」町会長になってから幾度となく聞かれました。必殺技や必勝法があるはずもなく回答に窮してしまいます。八日市出町は九十余世帯で、西南部で最小の町会です。町会長としては、選手が揃わない不安でいっぱいです。当然、無理やりの選手起用も避けられません。たとえば、リレーの小学四年生の部の選手は三年生を起用しました。六年生の部の選手は四年生を起用しています。やむをえなかったとはいえ、小学生にとって二つも年上の選手と競争せざるをえない気持ちといったら、不安とプレッシャーでいたたまれなかつたでしょう。「町会長！あの選手起用はあまりにかわいそうじゃないか！」そんな意見がテントの中から聞こえてきます。スタート位置に並ぶ子ども達の中で、頭一つ小さい出町の選手に対して町民の応援にも熱が入ります。「ビリでもいいからしっかりバトンを渡してこい」「転びさえしなければいいぞ。」この時、町民は全員がテントの最前列に集まり選手に声をかけています。図らずも町民が一体になった瞬間でした。

出町にはギリギリの選手しかいないことを町民全員が知っています。「速く走れないけど頭数になれば。」そんな思いで多くの人がテントの下に集まってくれています。町会規模の小ささこそ強さの秘訣なのかも知れません。町民一人一人の少しづつの「気持ち」が積み重なって一体感を生み「強い出町」を創り上げているのだと思います。

出場して活躍した選手はもちろんですが、せっかくなら来てくれたのに出場の機会がなかった町民の皆様はこの場を借りてお詫びと御礼申し上げます。本当にありがとうございます。皆さんの頑張りは「平成二十七年年度優勝 八日市出町」と、優勝旗とともに永遠に語り継がれます。



防災訓練に参加して



コミュニティ防災士

道下 仁(新八日市出)

十一月一日(日)の校下防災訓練に参加しました。訓練時間は短かったけれどもAEDを使用しての救急救命や給水車からの災害発生時の給水体験等貴重な経験をすることができ有意義な防災訓練であったと思います。心臓マッサージ、人口呼吸、AEDの使用については事が発生した時に「何もしない傍観者でいることが一番悪い」という言葉が、通報から約六分間、



救急車到着迄の間、マネキンではない生身の人に対して対処することが本当にできるか?行動する勇氣はあるか?を自問してしまいました。しかし、経験していい事は対処できないので普段から経験、体験をしておく事が大切であると痛感しました。又、給水車に給水が出来る拠点がりカーショップ・チャンスさんの前にあるとの事で、非常に心強くありがたい事でしたが、災害に備えての備蓄の大切さも教えられました。災害時には先ず自分の身を守る事が一番大切でこれができれば、助けに行く事も出来ると思う言葉も身に沁みました。今後は、被災者としての立場や被災者を受け入れる立場を踏まえた災害ボランティアセンター運営、避難所ハグ、クロスロードゲーム、安否確認方法等段階を踏まえながら防災訓練に取り入れていくことが必要かと思えます。校下の防災訓練を通じて繰り返し経験すること、いざ、という時に役立つものと思えます。訓練で得た知識、ノウハウを校下全体で共有化して行く事が地域の防災、減災に繋がるものと再確認でき、有意義な防災訓練でした。



消防訓練



七月十八日(土)、公民館の消防訓練が行われました。実習室出火の想定で非難訓練が行われ、非常ベルがけたたましく鳴り響く中、参加者全員が非常口から非常階段を使って駐車場に避難しました。

その後、消火器を使った消火訓練が行われ、全員が消火器の使い方を体験しました。地域コミュニティの中心となる大事な建物なので、公民館では年に二回、消防設備の点検も兼ねながら消防訓練を行っています。



善戦虚しく



九月六日(日)、専光ソフトボール場で第四十回市民ソフトボール大会が行われました。西南部チームは浅野町公民館チームと対戦しました。さすがに、選抜された選手で編成されたチームだけあって、ファインプレーも飛び出し、引き締まった試合となりました。試合は一進一退を繰り返していましたが、徐々に浅野町チーム打線の勢いが勝り、残念ながら西南部チームは善戦虚しく初戦敗退となりました。選手の皆さんお疲れ様でした。(脇坂弘明)



(脇坂弘明)

チカモリ 縄文まつり



チカモリ縄文まつりで感じたこと

西南部公民館 事務員 萩原 有希 (西金沢四丁目)

八月二日(日)、チカモリ遺跡公園において、チカモリ縄文まつりを行いました。

これまで我が子が何回か参加したのを聞いていたものの、恥ずかしながら私自身は今回が初めての参加となります。

会場では火起し体験をはじめ、縄文土器や勾玉アクセサリー作りなど、縄文食の無料試食もあり、一日充分楽しめるコーナーがいっぱいでした。

今年は新しく魚釣りゲームや水鉄砲で獲物を狙うウォーターゲームもあり、参加していた子ども達のはじける笑顔がとても印象的でした。スタッフでなければ思わず私も子ども達に交じって一緒に体験してみたいところでしたが、そこはスタッフ側、正直、我慢するのが辛かったです(笑)。

この事業、実は三部作になっています。七月にチカモリ遺跡を深く知るためのチカモリ学習会、次にチカモリ縄文まつり、そして終わった後は他の地域の遺跡をめぐるバスツアー。

縄文時代のことは、子供のころ教科書で少し習っただけで、これまでそれほど深く考えたこともありませんでした。しかし、学習会でその内容を詳しく知ると、今まで知らなかった縄文時代が身近になるから不思議なものです。

新保本町の道路の下から出てきたチカモリ遺跡は道具もない時代の人が堅いクワの木を加工して作ったのに、一体何のために作ったのかいまだに謎なのだそうなんです。そんな遺跡が私たちの校下にあるなんて興味深いと思いませんか。私はそこに何千年も昔の縄文時代のロマンを感じてしまいました。

子ども達も普段何気なく遊んでいて、大人にとっても公園も、遺跡もあまりに身近なので意識しないと思いますが、これらを少しでも感じてからこの縄文まつりに来るとさらに二倍いやそれ以上楽しめるのではないかと思います。

みなさんも来年はぜひ学習会から参加してみませんか。そして一緒にもっともっと縄文まつりを楽しめたらいいなと思っています。

思っています。

チカモリジョンガラ踊りの夕べ

八日市出町東町会 町会長

村松 敏朗

八月二日(日) 団体協議会主催
2015年チカモリジョンガラ踊りの夕べが開催されました。

押野分団による伝統の加賀鳶梯子登りに続き、チカモリ縄文太鼓の演技に多くの人々が感動し、その後各町会の婦人会の方々、子供たちが次々と踊りに参加して輪がだんだん大きくなっていき校下の方々の絆を力強く感じました。

食券売り場には長い行列が出来、スタッフが汗をかきながらもてなしの心で飲食を提供、人気の高さを感じました。

会場美化に協力していただいた会場美化委員・防犯パトロール・会場運営委員に感謝いたします。思い出の多い楽しい一夜でした。



チカモリ学習会

七月十八日(土)、西南部公民館でチカモリ学習会が行なわれました。当日は外へ出て歩きながら解説を聞く予定でしたが残念ながら小雨が降ったため室内での開催となりました。

今回はチカモリの人達はどこから来たのかという所が大変興味深く、発掘した地層の年代等から御経塚遺跡にあった村からの分村ではないかと考えられて

いるようでした。また、出土した八日市新保式土器、古府式土器は研究者の間では有名だと聞き、うれしくなりました。

(高橋哲哉)



遺跡巡りバスツアー

総務部副部長

安田 貴幸(西金沢新町西)

八月二十九日(土)、遺跡巡りバスツアーが行われました。空模様が良い中、講師の庄田知允さん(金沢市埋蔵文化センター)と三十六名の参加者に乗せたバスは富山方面に向け出発しました。最初の目的地「富山

遺跡めぐりに参加して

村田紀代司(西金沢二丁目)

今年の遺跡巡りツアーは富山県埋蔵文化センターで開催されている『発掘された日本列島二〇一五』旧石器時代から近代までの全国十九の遺跡の速報展示と東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査成果の展示』を見ることができると楽しみにしていました。

日本列島展の多数の展示物の中でも、富山県小竹遺跡の埋葬人骨のそばから丁寧に埋葬された二十一体の犬骨が出てきたことに驚くと共に、復元された若い男性のハンサムな顔に見入りました。また、栃木県甲山古墳から発掘された多数の埴輪の中に、全国初出土の「機織型埴輪」が

発見されているのを見たときは本当に驚きました。埴輪に残っている顔料からCGで復元された図を見ると、古墳時代の人々の埋葬に対する心情が少々ながら感じられたように思いました。

北代縄文広場(土屋根の竪穴式住居)も初めてでした。高岡市の国宝「瑞龍寺」や前田家墓所の案内も楽しく聞くことができました。

天気もだんだん回復し、良い一日を過ごすことができました。

このようなコースを計画された方々に感謝申し上げます。





2015文化祭

「やってみたいな」を カタチにした

「食と文化」の コラボレーション



オープニングの
「加賀煮」
今年は親子で……。

金沢高校ブラスバンド



力作ならぶ作品展



アイヌ文化の特別展



キッズフォト・ペットフォト



大好評！青空市



ONE・WAYのパフォーマンス

フラ教室の皆さん



オカリナ教室の発表

太極拳教室の皆さん



熱唱!
カラオケ教室の
皆さん

ラベンダージャズオーケストラ



2015年文化祭を終えて

文化教養部長 東 圭介 (西金沢二丁目)

十月二十四日・二十五日の二日間、今年度の文化祭が開催されました。心配された天候も、ステージ発表の間は発表者を明るく照らしてくれました。今年はスローガン通り、食と文化のコラボレーションを意識した作りになりました。

「食」の目線では新しく追加された豊富なメニューで来場された皆さんのお腹を満たしてくれたことと思います。

「文化」の目線では、今年は特別展として「アイヌ文化の継承」を行いました。展示室での貴重な展示に加え、刺繍の実演指導、ステージ発表等、国指定の縄文遺跡であるチカモリ遺跡を有する西南部地区としては、同様に縄文文化に深い関わりを持つアイヌ文化に触れられる機会とあって、とても有意義なものになったと思います。

ステージ発表の部では、押野分団の親子梯子登りに始まり、金沢高校吹奏楽部の元気あふれる演奏にたくさんの方の拍手が起りました。

今年初登場の大人のジャズバンド「ラベンダージャズオーケストラ」はレベルが非常に高く、昭和を代表する歌謡曲のジャズアレンジで大いに盛り上げていただきました。

最後になりますが、部長就任一年目で右も左もわからない中での文化祭でしたが、各種団体様、出演者様、公民館スタッフ、公民館委員の皆様のご協力のおかげでとても素晴らしい文化祭になったと思います。今回の思いを胸にまた来年につなげることができればと思います。

この場を借りて、ご協力いただきました皆様への感謝に代えさせていただきますと思います。ありがとうございました。

特ダネ西南部!



100km ウォーク

齊藤 雅之(古府町南第二)

西南部小学校父親の会メンバー五名(小森・前越・石戸谷・竹本・齊藤)で第八回石川県チャリティー100キロ歩行大会に参加しました。十月三日朝八時五〇分に七尾をスタート、制限時間の翌日一五時三〇分までに小松のゴールを目指しました。竹本さんは中盤まで快調なペースでしたが、激しい足の痛みにより五八キロのチェックポイントで無念のリタイヤ(来年リベンジとのこと)。残る四名は終盤には全員が足を痛めていたものの、なんとか一五時に揃ってゴールすることができました。全体では参加者三〇二名中、完歩者一九八名だったそうです。参加者以外の父親の会メンバーも、送迎やチェックポイントでサポートしてくださいました。また、深夜や早朝に応援に駆け付けてくれた方もいらつしやいました。みなさん、本当にありがとうございました。ゴール時の身体の状態はボロボロでしたが、仲間で行った一〇〇キロ歩行は「感謝・感激・感動」の体験でした。



金沢マラソン 2015 を走って!

西南部小学校 育友会 会長

二〇 寛(西金沢四丁目)

自分にとっては、人生初のフルマラソンとなりま

した。地元で開催される第一回大会で、初めてマラソンを完走してみたいと思いエントリーしました。学生時代に陸上部だったわけでもなく、持久走が得意だったわけでもありませんが、何かに挑戦してみたいという思いから申込みをしました。どんな疲労状態、精神状態になるのか。まったく未知の領域を経験することが大人になると少なくなるのかもしれない。今回は、まさに未知の領域を経験することができました。結果は、素人ランナーながらに何とか完走することができました。苦しい時間帯もありましたが、『ほんとうに、楽しかった!』というのが感想です。その大きな要因は、沿道の応援です。スタートからゴールまで切れ目ない沿道応援からパワーをもらいました。ハイタッチをしながら『がんばって!』と言われると『ありがとうございませう!』と返し自然に笑顔になっていました。笑顔になることで、自然に活力が湧いてくる、こんなやりとりを何度も繰り返しながらゴールにたどり着くことができました。疲れてくると、応援パワーをもらうためにあえて側道の方に寄ってハイタッチをさせていただいたこともありました。長時間にわたって沿道で応援していただいた方々には、感謝の思いでいっぱいです。

後日、沿道で応援いただいた複数の方から、『応援している側も楽しかった!逆に元気をもらった!』という声を多く聞きました。ランナーも応援している人も元気になる「参加型のお祭り」になっていたのではないかと感じています。こんな大会にエントリーできて本当に良かったと思います。

課題はあるかもしれませんが、来年の「金沢マラソン2016」にそれぞれの立場で関わって地元金沢を盛り上げていければと思います。

最後に、沿道の皆様をはじめ、多くの関係者の方々に感謝を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。



市民ソフトバレー 第三位

十一月八日に、金沢市営中央市民体育館において、三〇公民館、五〇チーム約五〇〇名が集まり大会が開催されました。西南部公民館からはフリー、三〇才以上、四〇才以上、五〇才以上の四チームが参加しました。その中で五〇才以上のチームは決勝トーナメントに進出しました。バドミントンのコートで二mのネットをはさみ、曲がり、落ちるボールを懸命にひろい、打つ熱戦を繰り広げ第三位となりました。選手の「楽しいから、やっとなるんや」の言葉どおり笑顔と汗のほとばしる大会となっていました。

(高橋哲哉)



お詫びと訂正

七月三十一日発行、館報「いんぎらあと」第53号、六ページ、緑美化委員長の記事
誤：大路 孝幸
正：大路 孝之

編集後記

館報五三号「特ダネ西南部」で取り上げたグラウンドゴルフ団体選手に選出された山森又二さんが、第三位になりました。おめでとうございます。

先日、金沢マラソンが開催されました。西南部校区からもたくさんの方が参加したようですが、応援の様子を取材に行ってきた象徴的でした。市民一体となった応援が好評だったようです。スポーツの秋を締めくくるにふさわしいイベントでした。

(脇坂弘明)